

ふるさとを愛する「たくましくしなやかな桶売の子」の育成

義務教育 9 年間をととして児童生徒の「生きる力」を育てます

目的 児童生徒数の減少による児童生徒の人間関係が固定化しやすい中、小中連携の実施により、児童生徒が多様な教職員、児童生徒と関わる機会を増やす。
中学校卒業時の生徒像を共有し、9年間を見通したその学年で身に付けるべきことを明確にした一貫性のある児童・生徒の育成を図る。

効果

- (1) 個々の児童・生徒の発達に応じた「生きる力」をスモールステップで育てることができる。
- (2) 小学生の中学校進学に対する不安感を軽減することができる。
- (3) 多様な教職員、児童生徒と関わる機会を増やすことで、人間関係スキルの育成や価値観、道徳性を育てることができる。

教職員の共通認識・持つべき視点

- 義務教育段階の教員であることの認識
- 義務教育終了時点での生徒像の具体化
 - ・ 一貫性を持った児童・生徒理解
 - ・ 目指す児童・生徒像、卒業段階での姿の明確化・共有化
- 資質・能力を見つけ、価値付けをとおした、可能性の伸長

家庭・地域との連携

- ① 目指す児童・生徒像の共有化・実践・評価・改善
- ② 教育的効果、到達点の共有化
- ③ 地域資源の活用による多様な人との関わり、場の設定による、コミュニケーション力の育成、郷土愛の醸成、勤労観・職業観等のキャリア教育への協力

具体的施策

学習指導面

◆ 9年間の学習の系統性「学びのつながり」を明確にし、個の発達段階に応じたきめ細かな指導を行う。

視点1「学習指導の継続性」

- 児童・生徒の発達段階をふまえた共通認識をもって学習指導にあたる
- (1) 小学校高学年と中学校1年生担任の交換授業
- (2) 互見授業等による授業をとおした児童・生徒理解

視点2「学習内容の系統性」

- 学習のつながりを把握する。
- (1) 学力・学習力の把握
学力テスト等での学力・学習状況等の把握
- (2) 9年間の学習カリキュラム編成
国語、算数・数学、英語

生徒指導面 社会性の育成

◆ 卒業段階での生徒像を明確化し、多面的・多角的視点で個の発達段階を把握・共有し、家庭・地域と連携しながら支援することで、個に応じた資質・能力を育む

視点3「小中合同行事」

- 発達段階による高めたい資質・能力
- (1) 中学生は、上級生である自らに自覚的となることで自尊感情や責任感、思いやりの心を高めることができる
- (2) 小学生は、上級生へのあこがれや尊敬、目指すべきモデルとしての目標をもつことができる。
- (3) 縦割りの集団活動で、助け合い、認め合い、尊重の心を育てることができる。

視点4「外部団体・人材の活用」

- コミュニケーション力や郷土愛、キャリア教育の協力
- (1) 公民館等関係機関との連携事業
- (2) 地域人材の活用

小中合同行事一覧

行事等	内 容	月 日
入学式	入学式	4月6日(月)
防災	交通安全教室	4月10日(金)
	防犯教室	4月27日(月)
	避難訓練 2 回	5/8、9/1
保健・衛生	救急救命法	6月19日(金)
	身体測定	4月7日(火)
	各種検診	
運動会	学校保健委員会	11月4日(水)
	合同練習 5 回	
明夢祭	運動会	5月16日(土)
	実行委員会 4 回	
授業参観	明夢祭	10月24日(土)
PTA 献花	3 回実施	4/24、7/4、2/19
クリーン作	年 2 回	5/30、8/22
離任式	年 2 回	5/11、10/19
	合同離任式	3月26日(金)